富山・桜町（さくらまち）遺跡

1　所在地　富山県小矢部市桜町字中出
2　調査期間　一九八七年（昭62）五月～一一月
3　発掘機関　小矢部市教育委員会
4　調査担当者　岡本淳一郎・伊藤隆三・高木場万里・山森伸正
　　林　浩明
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　縄文時代～近世
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

桜町遺跡は、小矢部川と子撫川の合流部西側にあり、市街地と子撫川の間の水田地帯に立地する。遺跡は面積約六〇万㎡、標高は約三〇m～二三mを測る。一九八〇年度より道路・住宅建設などに伴い、約四五カ所の調査を実施している。遺跡自体は縄文時代から近世までの複合遺跡であるが、おおよそ縄文時代中期から晩期までと、飛鳥時代から平安時代前期にかけての遺構が中心である。

（石　動）

川跡ＳＤ一一は調査区北西から南東へ流れており、深さは約三〇㎝、上手と下手で幅約二～三m、中央部で幅約七mを測る。この中央部の広くなったところには流路に沿って水路の護岸・分流のための杭が打ちこまれている。木簡は、ＳＤ一一の中央部の広くなった部分より出土した。他に、地名・人名・神職名を記した墨書土器、斎串などの木製品が出土している。木簡は五点出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　一石一石□一　(116)×19×7　081

(2)　・□　・□　(148)×(20)×6　081

(3)　□　(105)×(20)×8　081

(4)　□　□　(79)×22×5　019

(5)　□□　(83)×24×4　059

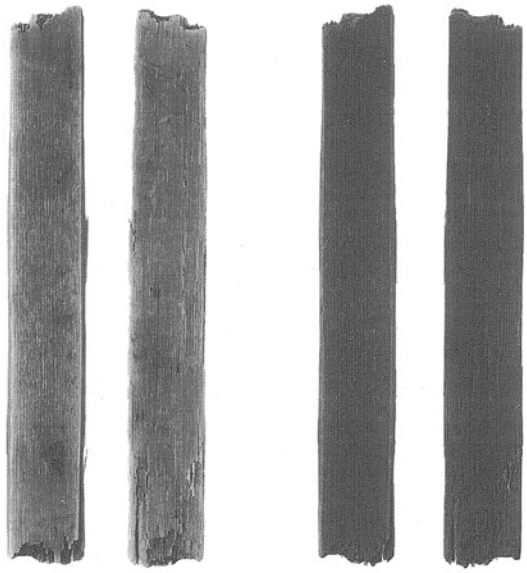
いずれも杉材である。(1)は板目材で、上下両端は欠損か。習書簡と考えられる。(2)から(5)までは墨痕が残るが判読困難である。(2)の左辺は欠損か。(3)の左辺も欠損か。(4)の上端は欠損か。(5)は付札木簡

の特徴をもつ。上端は欠損。

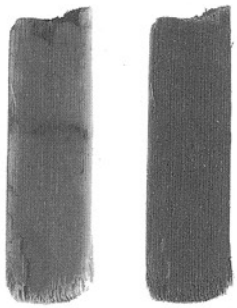
9　関係文献

小矢部市教育委員会『富山県小矢部市　桜町遺跡発掘調査報告書　弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ』（二〇〇三年）

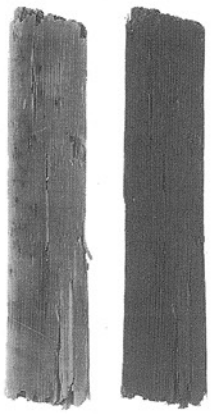
（塚田一成）



(2)赤外線写真　(2)

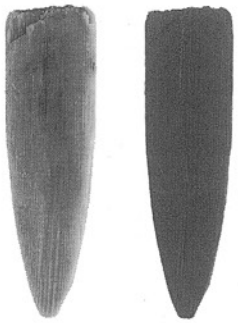


(4)赤外線写真　(4)



(3)赤外線写真　(3)

(1)赤外線写真　(1)



(5)赤外線写真　(5)

「大社祝」

「長岡神祝」

墨書土器

（木簡1:2　墨書土器1:3）